

登録コード	HM131200	開講年度	2026			
授業題目	放射線腫瘍学特論				担当教員	小岩井 慶一郎 他
英文授業名	Radiotherapy				副担当	牧島 秀樹
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				血液腫瘍や固形腫瘍における放射線治療の原理と役割が説明できるようにする。	
(2)詳細 /Detailed information	放射線治療学に関して、放射線の一般的生物学的作用と細胞・組織・臓器に対する影響などの基礎知識と、放射線治療の抗腫瘍学的な臨床的意義について理解する。					
(3)授業の概要 /Overview of course	本講義では、放射線治療の標準的治療と安全精度設定の基礎と、現在用いられているあるいは開発中の照射法に基づきその照射装置の特徴を理解する またそれらの臨床的有效性や意義を理解する					
(4)授業計画 /Course plan	放射線の一般的な特徴（第1回～第2回） 放射線治療の原理や治療装置および線量分布や線量計算等（第3回～第5回） 各がん種に対する放射線治療の標準的治療法および精度向上のための照射法（第6回～第12回） 放射線治療を含めた集学的治療やと臨床研究（第13回～第15回）					
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	上記4つの項目について授業終了後簡単な記述式小テストを実施し、各10点とする。 最初の2項目終了時と後半2項目の最終授業時に面接形式の口頭試問を行い各20点とする。 得点率による評価基準は次の通りにする。90％以上 秀、80 - 89％ 優、70 - 79％ 良、60 - 69％ 可、59％以下 不可					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	本講義は、最先端の治療法などの話題を学ぶものでなく、系統的に基礎知識を積み重ねていく形式の授業である。連続した学習が望ましい。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問は受ける。授業中、授業直後あるいは、教室への来室でも対応可能である。来室の場合には、原則事前にアポをとること。					
(8)授業の形式 /Course format	PCを用いて講義形式で行う。実際の放射線治療室などで治療対象患者の見学・実習を兼ねる場合もある。 各講義の内容はお互いに関連性や系統的な内容となるため、準備および復習が必要とする。					